

共に掲げよう！地域・市民社会・企業からの ESD 推進宣言・提言

団体名 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議（ESD-J）

■ ESD ユネスコ世界会議の成果 ■

ESD-J は、全国各地の教育関係者、NPO、自治体、研究者、ユース、企業らと共に、ESD（＝多様な主体の連携・協働による持続可能な地域づくりを目指す学び）を今後も推進していくための「宣言・提言」を作成、これを紹介、意見交換した。80 名の参加者は、関心のあるテーマ別にグループを組み、提言への疑問や期待、自分の活動との関わりなどを話し合った。

「ESD 推進の仕組みづくり」のグループでは、持続可能な地域経済やコミュニティファンド、推進拠点となる協議会の必要性や運営について意見が出た。

「企業で ESD を推進」では、企業と地域やユースとのつながり方、企業としての社会的役割に即した人材育成のあり方について、「教育改革を進める」は、授業での具体的方法や、生涯学習へのシフト、教員養成の問題、地域との連携について、「ユースの参画」では、綺麗事でワクワクしないとの本音が語られ、ユースにとっての地域とは、他とのつながりについて等の課題が提起された。「地域全体で ESD を推進」では、都市部と地方で異なる多様なコミュニティの存在、ESD コーディネーターの重要性、地域とグローバルをつなぐ国のビジョンの問題、地域経済再生の具体的な方法などの課題が出された。以上のような意見を受けて、5 人のパネリストは、提言づくりに携わった地域、教育界、産業界、ユースのそれぞれの立場から、提言に込めた思いなどを語った。

ファシリテーターの ESD-J 理事 森良より、皆さんの意見を、提言の今後の実現に生かしていこうという呼びかけがあり、最後に、ESD-J 代表理事 阿部治が、「持続可能な社会へのビジョンを描かずには実現はできない、DESJ の 10 年で描いたビジョンがこの「宣言」「提言」。今、実現に向けた新しいスタートが始まる、ぜひ多くの皆さまからのご賛同のサインアップをいただき、新たなビジョンを共に達成していきましょう。」と締めくくった。

■ 今後の展望 ■

DESJ での実践から生まれた提言（ビジョン）が、2015 年以降の実現に向かうためのアクションプラン

短期目標（2015）	中期目標（5 年後）	長期目標（10 年後）
・提言のブラッシュアップ ・提言の認知度と賛同者を上げ、実現に向けた基盤・ネットワークづくり ・GAP と相乗効果を上げるようなプロセスづくり ・ESD コーディネーター等の人材育成	・提言の実現に向けた、しくみや体制が、それぞれの組織、地域、国に作られている ・ESD コーディネーター、ファシリテーター、教員など、提言の実現に向けて、専門スキルを有する人材が育っている	・多様な主体による連携・協働によるそれぞれの ESD が、地域創生の効果として見え始めてきている状態 ・元気な地域がさらに増えている状態 ・課題を同じくする世界の地域との有機的つながりが生まれている状態

